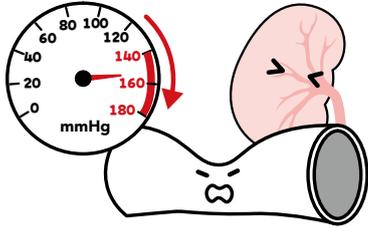


# CKDと高血圧

## 慢性腎臓病

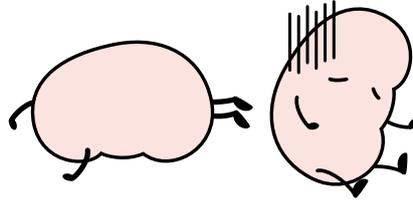
その高血圧は、静かに腎臓に負担をかけていることがあります。

### 静かな圧力



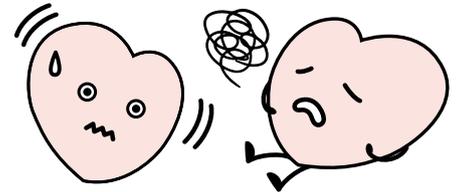
高い血圧は、腎臓の繊細な血管(糸球体)に常に強い圧力をかけ続けます。

### 知らぬ間のダメージ



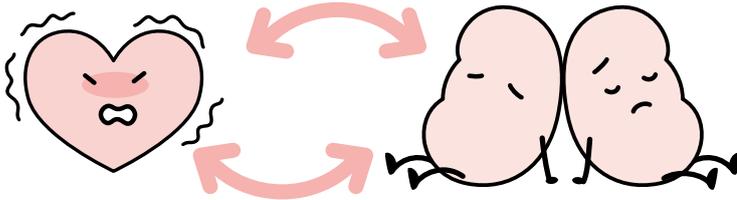
気づかぬうちに血管に負担がかかり、腎臓の機能が低下していることもあります。

### 連鎖するリスク

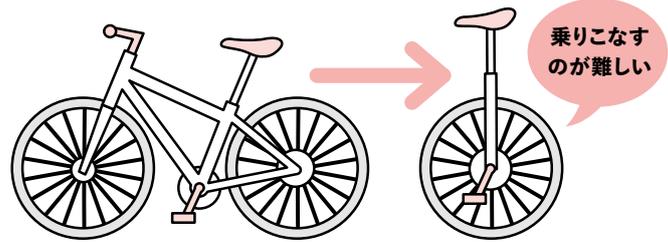


腎臓が悪くなると、脳卒中や心臓病のリスクも一段と高まります。

腎臓の機能低下と高血圧は、お互いに悪影響を及ぼし合います。



高血圧が腎臓を傷めるだけでなく、腎機能が落ちるとさらに血圧が上がるという「悪循環」に陥ります。

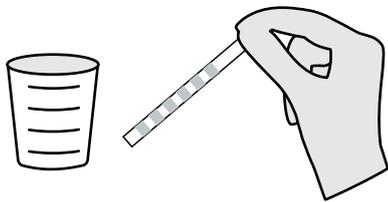


腎臓の機能低下は薬の効き方にも影響を与え、血圧管理そのものが難しくなることもあります。

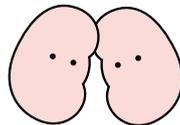
年1回<sup>①</sup>の「腎臓チェック」で未来が守れます。

①リスクが高い方は、検査頻度を主治医と相談してください。

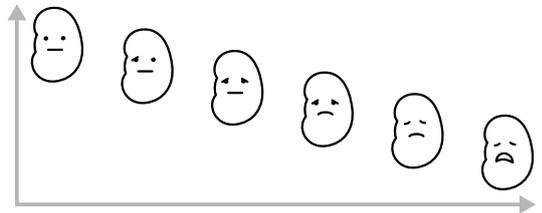
### 尿蛋白(腎臓のダメージのサイン)



腎臓チェックで大切な2つの数値



### eGFR(腎臓の元気度)



毎年健診を受け、過去の数値と比較することで、わずかな変化に気づくことができます。高血圧の方は、腎臓への負担がかかりやすい「リスクグループ」です。

監修

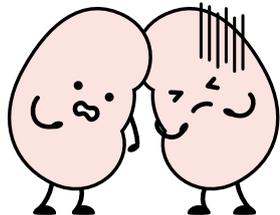
川野 美穂 一般社団法人 環境と医療の Lab. 代表理事、よろず腎診療所(麻布)院長

# CKDと糖尿病

## 慢性腎臓病

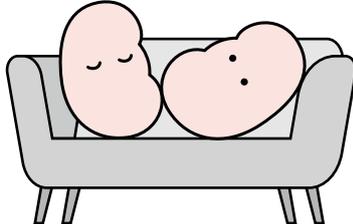
腎臓は、分かりやすいサインを出さないまま、静かに変化します。

### 体感できない病気の進行



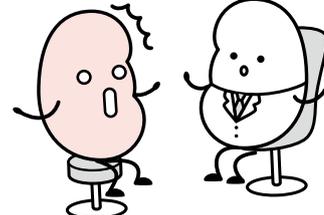
血糖値が高いままだと、  
腎臓の血管が少しずつ  
傷ついていきます。

### 「いつも通り」の裏側で



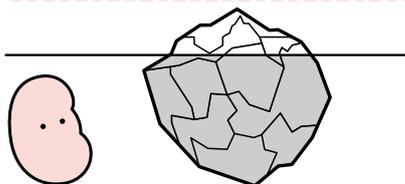
痛みや違和感、目立った変化が  
ないまま、腎臓の機能が  
静かに失われていきます。

### 気づいた時には…

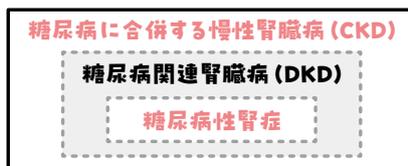


むくみやだるさが出る頃には、  
腎臓の機能低下が  
進んでいる場合もあります。

腎臓については、「血糖コントロール良好」でも油断できません。



血糖値が良好だからといって、  
必ずしも腎臓が安心とは  
限りません。



現在は、血糖の影響だけでは  
説明できない腎障害  
(糖尿病関連腎臓病:DKD)も増えています。

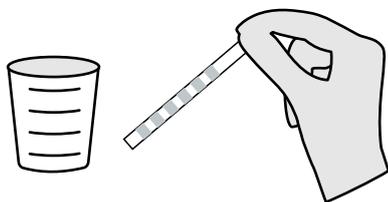


高血圧、脱水、加齢なども  
腎臓に負担をかける  
大きな要因です。

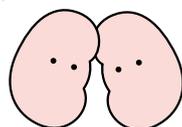
年1回<sup>①</sup>の「腎臓チェック」で未来が守れます。

①リスクが高い方は、検査頻度を主治医と相談してください。

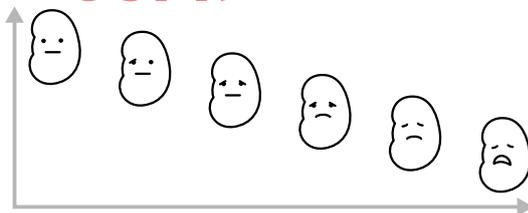
### 尿蛋白 (腎臓のダメージのサイン)



腎臓チェックで  
大切な2つの数値



### eGFR (腎臓の元気度)



腎臓の機能低下は元に戻りにくいとされています。腎臓を守るため、新たな異常を早期に発見することが大切です。早期であれば、適切な介入で進行を遅らせることができます。糖尿病の方は、腎臓への負担がかかりやすい「リスクグループ」です。

監修

川野 美穂 一般社団法人 環境と医療の Lab. 代表理事、よろず腎診療所(麻布)院長